

高齢者住宅・施設専用

無線式ケアコール

ジーコム(東京都大田区)が販売しているケアコールシステム「ココヘルバ」を導入するサービス付き高齢者向け住宅(以下:サ付き住宅)や介護施設の運営事業者が増えている。同システム活用のメリットについて導入事業者に話を聞いた。



▲ベッドサイドに設置した緊急呼出ボタン。センサー類の移設・増設が簡単

30室、50万円台から導入可

「初期コストを大幅削減」が最大のメリット。ライフサポート研究所(神奈川県中津市)や関東圏で「カシタ」ブランドや、関東圏で介護付有料老人ホーム 調剤薬局を13店舗運営を運営しているトータル「ルーエーンハイ」(ココヘルバ)は、高齢者住宅・施設専用開いた見守りシステムで、拡張性の高いワイヤレス(無線)ネットワークを採用。さまざまな創意工夫を重ね、従来の有線式に比べるの1/10以下のコストで導入が可能。ワイヤレスのため、入居状況や入居者の身体状況に合わせて、センサー類の移設・増設が簡単に行える。また、緊急事態を直感的に理解できるように、発生場所が一目で分かる全体画面と、呼出の部屋番号、入居者の名前、センサーの種類、発生時刻を表示し、履歴は1日単位で記録される。この履歴をスタッフが一掃して分析することができ、入居者の生活サイクルを把握し、ADLの向上に役立てている。



▲介護施設の見守りについて話すジーコムの杉原博夫社長(右)と、トータルライフサポート研究所の宮路啓社長(左)

経営の智慧

見守り編



▲事業者の要望を加味し、防水型の呼出ボタンを用意

4年前に見守り機器開発に着手

ジーコムは1992年に創業し、技術屋集団として計測器やボケベル、携帯電話のモデル開発を主力事業としてきた。中国で大ヒットした漢字対応ボケベルや冬のソナタで使用されていた携帯の機種・モデル開発は、サムソン電子からのOEMで同社が企画・開発したもので、そして、開発会社からメーカーになろうと決意し、これまで培ってきた無線通信機器開発の技術力を活かし、2008年に「購入



▲呼出ボタン・センサー類はPCで集中管理

「緊急性の高い医療現場」が求められる。また、低コスト導入できない魅力を感じたという話も事業者が多い。「見守りシステム導入の必要性を感じ、販売メーカー数を訪問。直接商品コンゼットなについて話を聞き、初期投資コスト、維持・管理コストなどの費用面や、呼出ボタン・全センサー類の移設・増設が簡単で、かつ呼出ボタン・全センサー類をパソコンで集中管理できるという使い勝手の良さ、そして高開発への取り組み姿勢と事業ニーズに応じたカスタマイズ対応に魅力を感じ、ジーコムのシステムを採用しました。」トータルライフサポート研究所 宮路啓社長

「ココヘルバ」は、高齢者住宅・施設専用開いた見守りシステムで、拡張性の高いワイヤレス(無線)ネットワークを採用。さまざまな創意工夫を重ね、従来の有線式に比べるの1/10以下のコストで導入が可能。ワイヤレスのため、入居状況や入居者の身体状況に合わせて、センサー類の移設・増設が簡単に行える。また、緊急事態を直感的に理解できるように、発生場所が一目で分かる全体画面と、呼出の部屋番号、入居者の名前、センサーの種類、発生時刻を表示し、履歴は1日単位で記録される。この履歴をスタッフが一掃して分析することができ、入居者の生活サイクルを把握し、ADLの向上に役立てている。